

話し合ったテーマ 基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

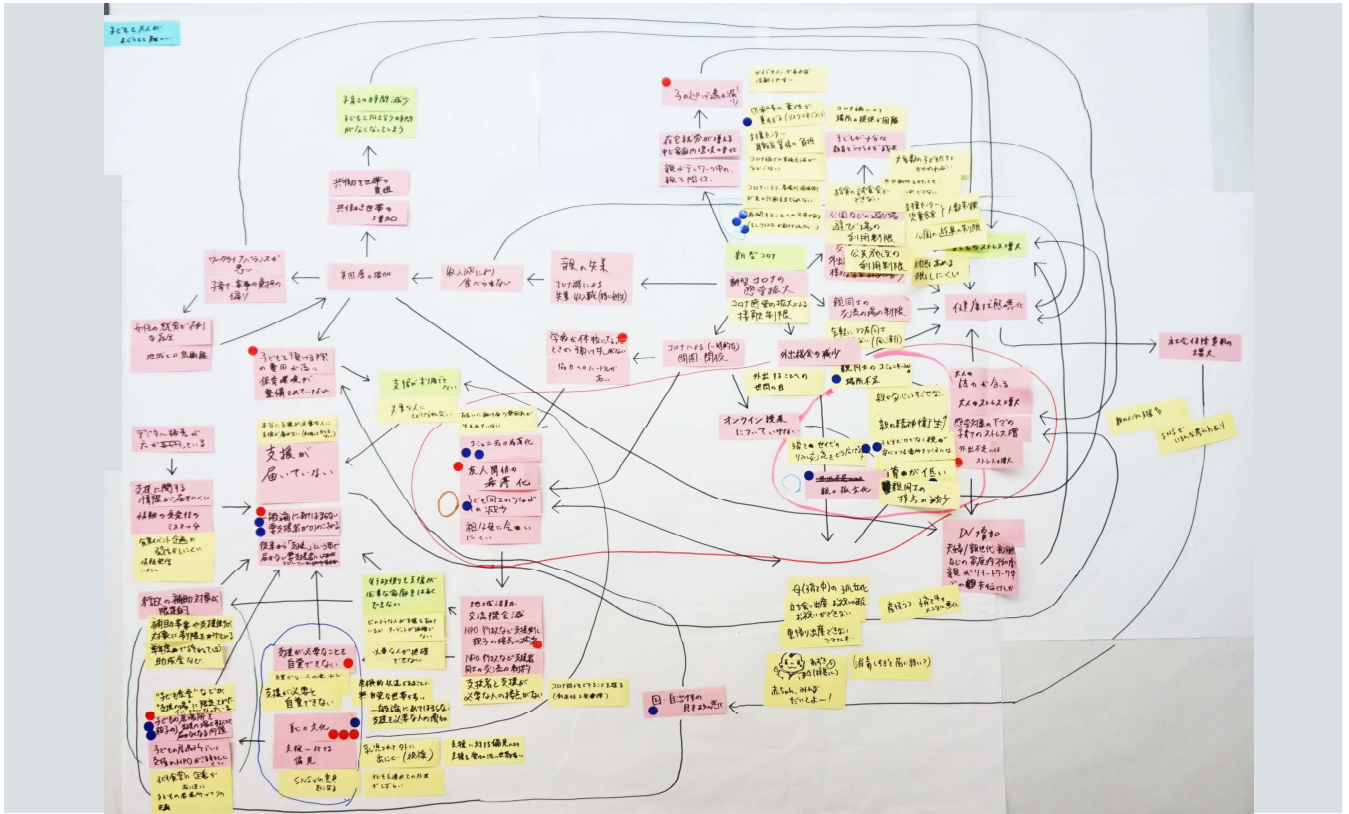
## コロナ禍での子どもの居場所づくりのあり方

自治体名

桐生市

### 課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



### フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのかを、「問い」のかたちにとめました。

#### 1 親と子の自己肯定感が低い

周りのひとたちとコミュニケーションがとれていない親または子が、人と関わる成功体験を積んでいくことで自己肯定感を高め、外に出ていくことができるために、何が可能か？

#### 2 居場所を提供する事業者が限定的

支援につながる居場所を提供する事業者（公的&民間）が、幅広く（所得や家庭の状況で限定せず）親子に居場所・交流の場を提供するために、何が可能か？

#### 3 恥の意識

恥の意識により、支援を必要とするものの、反応を示さない子育て世帯が、具体的な活動や支援の場に関心を持ち、支援を受ける一歩を踏み出すために、何が可能か？

### 未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

子ども食堂 × ○○  
子ども食堂 × ○○としてイベントの実施をする。例えば、子ども食堂 BBQ、子ども食堂星空シネマ、子ども食堂お笑いライブなど。また運動会に合わせて全員にお弁当を配布したり、同時に子ども食堂利用券を配布し、地域のみならず利用できる食堂を目指す。

子育てしやすい物理的環境の整備（社会全体で子育て）  
いつでも生活空間（スーパー、ショッピングモール、保健センター、図書館）で子育ての相談ができた、託児を頼める窓口をつくる。またスーパーや図書館に気軽に相談できる支援者、見守りの方も配置し、ママのためのスペースやフリードリンクサービスも。

桐生動産  
移動式「居場所」プロジェクト  
まずは親！  
ゆるトークマスターが、協力施設や店舗で対話の場所を無償で提供する。毎回対話の場所が変わり、地域にたくさん居場所ができる仕組み。

自己肯定感高まる親の居場所作り  
子育てしやすい環境、支援を行政+ママで定期的に話し合える企画が欲しい。ママの特技リスト「私こんなことができます」が見ることができたり、子どものためのお仕事体験場所、華金（華の金曜日）用の託児スペースを提供する。

産官学で子育てのあり方を対話する場  
行政組織内で居場所づくりの意識を高める。行政の補助の基準を見直し、対象を絞らず困難に対処するリソースの提供を行う。例として、助成金活用に向けた企画の検討会議などをしたり、対話型の場を設ける。